

## 新学期に向けて

進級したばかりの新学期。子どもたちは新しい学年にやる気いっぱいです。

しかし、一番「変化」が多いのも、この1学期です。変化に弱い子どもたちにとっては、不安がいっぱい。

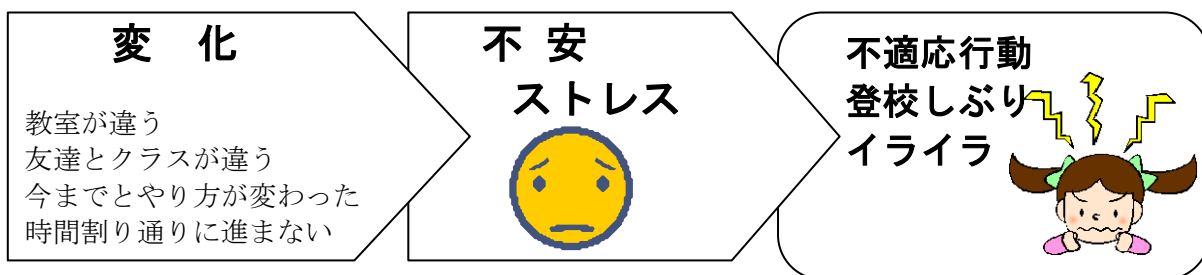
### < 新学期の「変化」 >

- ・教室の場所
- ・昇降口、げた箱
- ・クラスのメンバー
- ・ロッカーの場所
- ・担任の先生
- ・学級のルール
- ・学習のルール
- …などなど

他にも、健康診断、運動会練習、行事などによる日課変更が多いのも、この時期です。なかなか日課表通りには進められません。

変化に弱い子（発達障がいであれば、自閉症やアスペルガー）は、この時期に強い不安やストレスを感じることがあります。

それらの不安・ストレスは、不適応行動（立ち歩き、教室を抜け出す、泣く、騒ぐ）や登校しぶりとして表れます。大きな表れがなかったとしても、「なんとなくイライラしている」「落ち着かない」「些細なことで友達とトラブルになる」などの変化として表れることが多いです。



### < 予告する >

変化に弱い子に大切なのは「見通し」です。次にやることを予告したり、活動の終わりを示したりすると、安心感が持てます。

クラスに変化に弱い子がいる時には、4月から変わる事で予告できる事は、3月のうちに伝えておくといいですね。

今日の予定
1 係決め
2 発育測定
3 めあて
給食当番
掃除場所
帰りの会
下校 〇時〇分

4月になったら、みんなは3年生です。教室は、この上の階になります。クラスがえがあるので、学級の仲間が変わります。担任の先生も、かわるかもしれません。生活科がなくなって、理科や社会 総合の勉強が始まります。 などなど



下の学年ほど、今の学級のルールが「あたり前」と思っています。クラス解体や担任が変わることによって、その「あたり前」が変わることがあります。「今まではこうだったのに、どうして？」と抵抗を感じる子もいるかもしれません。

学級開きの時には、「先生と前の先生では、やり方が違うことがあるよ。」「〇年生になったから、ちょっと難しいやり方に変わるよ。」などと予告しておく、子どもも心構えができます。

学級のルールをあいまいにしておくことは、不安やトラブルの原因になります。とりあえずでもルールを決め、教師がそのやり方に不安があれば「このやり方は、〇〇とします。もし後で先生が変えた方がいいと感じたら、変更するかもしれません。その時は伝えます。」と、変更の可能性を残したまま、仮決定という方法もあります。とりあえずでも、決まったやり方がある方が、子どもは安定します。